

第41回 芝富士地区まちづくり協議会 議事要旨

(1) 日時

令和5年11月28日(火) 午後6時30分～8時

(2) 場所

芝富士公民館 1階ホール

(3) 出欠者(会員数7名)

- ・会 員：5名(欠席者2名)
- ・事務局：川口市6名、(株)首都圏総合計画研究所2名

(4) 議事次第

- 1) 開会
- 2) 説明及び意見交換
 - (1) 前回の補足
 - (2) 公園部会について
 - (3) 整備計画の見直しについて
- 4) 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 資料：説明及び意見交換



▲当日の意見交換の様子

(5) 議事概要 (○：協議会会員の発言、→：事務局の発言)

1) 開会

事務局より、開会の挨拶。

2) 説明及び意見交換

事務局より「資料：説明及び意見交換」について、資料に基づき説明。

各報告事項について、以下のとおり意見交換を行った。

【(1)前回の補足】

→：②公園の整備について補足したい。説明にあった一定規模以上の面積とは、公園課による整備・維持管理を前提とした考え方である。事務局としては、地元の要望を踏まえつつ、公園課との協議のもと、一定規模を下回る規模の公園整備を視野に入れて検討を進めていきたいと考えている。小規模の公園については、地元のご協力が得られれば、公園課と協議しつつ整備していきたいと考えている。

○：主要区画道路1号の線形について、設計は完了しているのか。

→：道路線形は本日の資料の通りだが、詳細設計はこれからである。

【(2)公園部会について】

○：部会員の推薦について、事務局からは寿富士会からの参加人数は2名であるとの説明であったが、個人的に話を聞いたところ1名だと思う。今後、まちづくりニュースで部会員を公募するのか。

→：その予定である。芝富士町会公園ネットワークの裾野を広げるきっかけにもなると良い。

【(3)整備計画の見直しについて】

<①緑道について>

○：重機の搬入が困難ということだが、そのようなことがあるのか。幅員1.8m程度あれば、小型の重機は入るのではないか。

→：重機の搬入が困難であることは、河川課からヒアリングした内容である。物理的には入ることが可能かもしれないが、別の問題があるのかもしれない。

○：パターン1の理由には納得いかないが、パターン2で良いのではないか。

→：水路のかさ上げが難しい理由について、河川課に改めてヒアリングして整理する。

○：かさ上げできないということは、水路は現状のままとなるのか。

○：かさ上げ自体は難しいということだが、より歩きやすい空間とするために、他に方法があるか考えるということだと思う。

○：バス停に向かうために、日常的に緑道を利用しているが、蓋ががたついており、歩くと音がするほどである。

○：現在の水路は、歩けないほどのものではないので、高さの調整について、そこまで気にしなくてもいいのではないか。一方で、今は蓋をしているだけになっているが、他の地区ではきれいに整備しているところもある。

○：音の問題は、緩衝材を入れれば解消するのではないか。重量があるバイクが通ると劣化するので、低い柵を設けてバイクや自転車が通れないようにすることが考えられる。

- ：水路に植木が置かれているケースが見られる。道路に比べて境界がはっきりしていると思うが、物を置かれると避難経路として機能しないので、ハードとソフトの両面で対策を考えていく必要がある。
- ：水路と宅地の境界については、測量を行っている。また、支障物が置かれている現状については、以前報告を受けていたため、河川課に伝えている。既に河川課から所有者へ声掛けを行っており、所有者からは支障物の撤去について前向きに対応いただく旨の返事をいただいている。
- ：以前、水路に柿の木が植えられているケースがあった。河川課の立場では、所有者の了承を得ることなく伐採はできないというので、所有者と折衝したこともある。
- ：水路の支障物の撤去についても、まちづくりニュースを活用して上手く周知できると良い。
- ：資料の中で、夜間照明や蓄光テープについて記載させていただいているが、夜間の現状の明るさについてはいかがか。
- ：震災時の停電を踏まえると、何かしら対応できると良いのではないか。一方で、日常時にあまりに明るくても苦情の対象になる可能性がある。
- ：水路側に寄せて建物を建てているケースが多いため、沿道の住民にとっては、家の裏側を歩かれている感覚になるのではないか。
- ：本来は避難通路であり、日常時の生活ではあまり通らせないようにする考え方もあるのではないか。
- ：現在は、歩行者は常時使用できるようになっている。どの程度の歩行者量であれば許容できるかは、個々により捉え方が異なるだろう。そのあたりを考慮して検討していく必要があるだろう。
- ：水路沿いの危険ブロック塀の解体はどの程度進んでいるのか。震災時に経路がふさがっていたら意味がない。
- ：そもそも、水路沿いに危険なブロック塀はどの程度あるのか。
- ：過年度に整理したものがあため、改めてお伝えしたい。ブロック塀解体の補助は、これまでに6件の実績がある。
- ：実績だけ伝えられても、全体数が分からないと話が進められないのではないか。
- ：通学路沿いのブロック塀解体補助はあるのか
- ：通学路沿いについては、建築安全課による補助事業がある。
- ：市街地整備室が取り組んでいる、緑道沿いのブロック塀解体の補助事業について、「危険なブロック塀」とは、宅地地盤面から0.6m、または、水路面から1.0mを超えるものを対象としている。また、危険なブロック塀の全体数については、精査し、件数を改めて伝えたい。かなりの数はあると認識している。
- ：仮に、水路が通学路として利用されるようになると、ブロック塀の解消に向けて喫緊に取り組むべきである。
- ：行き止まり道路と水路はレベル差があり、各所有者が各々で段差を処理している。そこを解消するための施策があれば、所有者の意向も変わるかもしれない。
- ：民地の中で段差を調整していくことになるかと思うが、それに対してどこまで市が対応できるかは今後検討していきたい。

<②雨水貯留浸透施設について>

- ：将来的に芝富士小学校に雨水貯留浸透施設を設置するというのであれば、パターン

3が合理的だと思う。

- ：上流である芝富士小学校に雨水貯留浸透施設を設置することでどの程度の効果があるかは不透明である。例えば道路について、透水性のあるアスファルトがあると思うが、透水性のあるアスファルトを敷設している道路はあるのか。
- ：一般的に、透水性アスファルトは耐久性がなく、整備は特に進んでいない。
- ：他に案がなければパターン3で良いのではないか。
- ：ハザードマップでは、当地区は周辺と比較して安全な方である。
- ：当地区周辺の水路と河川の関係がよく分からない。

<③無電柱化について>

- ：市の無電柱化推進計画で、芝地区はどのような位置づけになっているか。
- ：無電柱化推進計画に基づき無電柱化を進めていく対象は、駅前や緊急輸送道路であり、その中で優先順位が定められている。芝地区を含む市街地は対象外である。
- ：東京の環状7号線の無電柱化を400m整備するのに、7年かかったとニュースで聞いた。相応の時間とコストがかかることは理解できる。
- ：なぜ主要区画道路5号のみ無電柱化を進める計画となっているのか。商店街があったことが関係しているのか。主要区画道路8, 9, 10号は無電柱化を進めないのか。
- ：芝地域整備計画によると、無電柱化の対象は、主要区画道路5号のみであり、景観整備を目的としたものである。芝地域整備計画は芝地区の住宅市街地整備計画とは表現は多少異なるが、整備内容として示しているものは同じである。
- ：無電柱化推進計画はどのようなプロセスで作成したのか。
- ：国が定めた無電柱化の推進に関する法律に基づき、県、市それぞれで無電柱化推進計画を作成している。
- ：市の無電柱化推進計画について、対象区域や、優先順位の考え方等の内容を把握しないと意見を出しづらい。
- ：所管課が異なり、一般に公開されているものではないため、ここでお示しするのは難しい。
- ：無電柱化の目的は災害対策ではないのか。新聞記事によると相当のコストがかかるようである。
- ：最初は景観整備が目的ではなかった気がする。
- ：まちづくりニュース1号では、景観整備が目的と記載されている。
- ：電柱の集約については、NTTと東電が扱っている電柱を把握していないため、そもそも集約が可能なのか、市で調査してもらえないか。
- ：調査してみて、改めて報告する。
- ：長期的にみても、市街地もいずれは考慮してほしい。
- ：生きているうちは、実現は難しいだろう。
- ：「市の別計画」とは何のことか。
- ：ここでは、無電柱化推進計画を指している。無電柱化推進計画は、10か年計画である。
- ：無電柱化推進計画で市街地を対象とすることは可能なのか。
- ：10年後、20年後の見直しを見据えて働きかけていくということだろう。
- ：パターン2、パターン3を並行して進めていくほかないのではないか。

4) 閉会

- ・次回協議会は、令和6年2月となる。日程は会長と事務局で調整する。また、資料は会員に事前配布する。

以上

■整備計画の見直しについて

区分	決定事項	確認、対応事項
緑道	パターン2で整理	○水路のかさ上げが難しい理由について、河川課にヒアリング確認 ○蓋の劣化に対する対応検討 →緩衝材の設置 →バイクや自転車が通れないような規制 ○支障物に対する対応検討 →撤去いただくよう、ニュースで周知 ○震災時を想定した明るさ確保の検討 →日常時も考慮して検討 ○危険ブロック塀の全体数の整理 ○民地と緑道の段差の解消方法の検討
雨水貯留浸透施設	パターン3で整理	
無電柱化	パターン2及びパターン3で整理	○NTTと東電の電柱集約の可能性検討